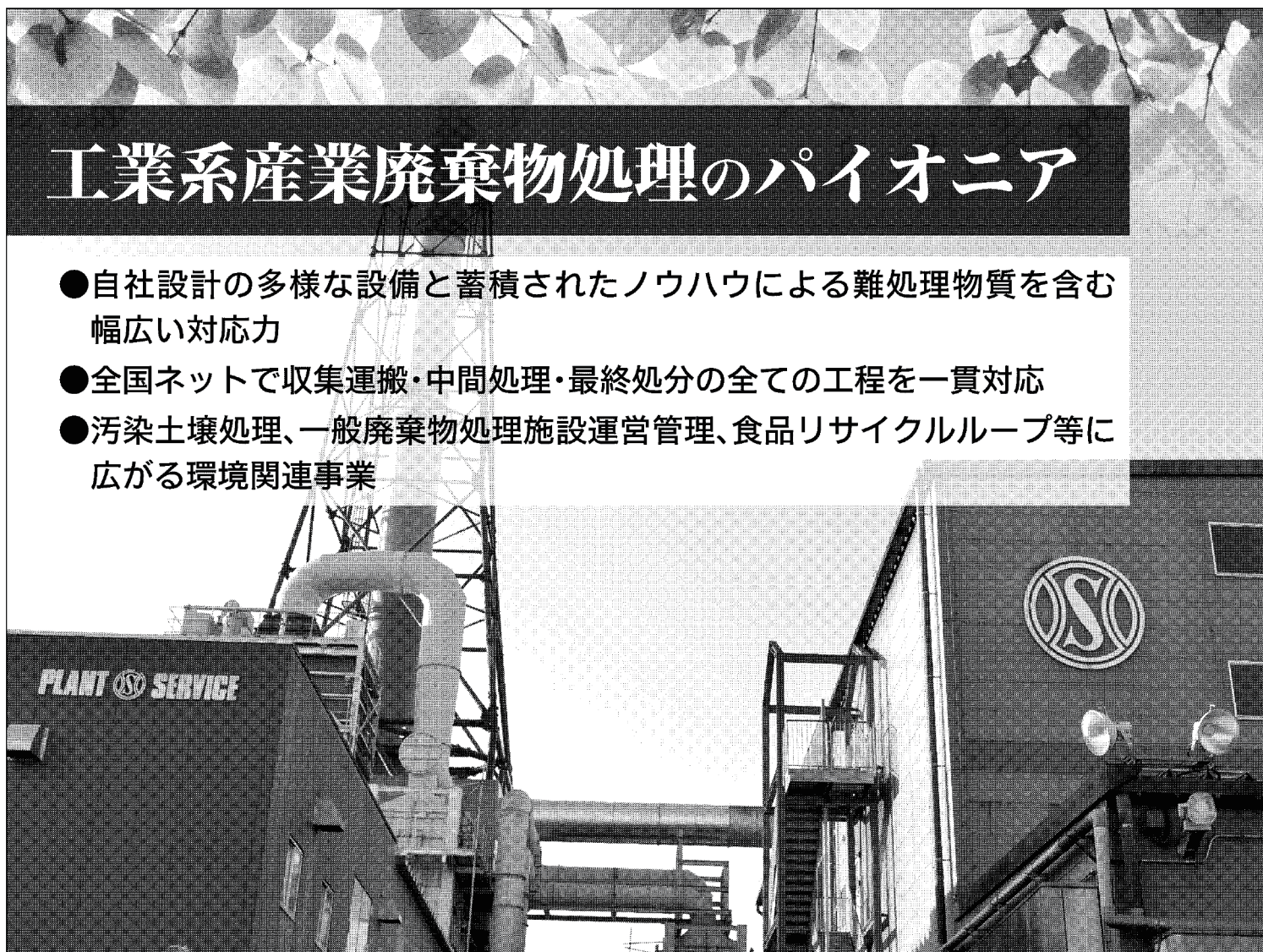


# 環境配慮・社会課題解決に一役

## ⑥ 県央エリアの有力企業 ③

### 工業系産業廃棄物処理のパイオニア

- 自社設計の多様な設備と蓄積されたノウハウによる難処理物質を含む幅広い対応力
- 全国ネットで収集運搬・中間処理・最終処分の全ての工程を一貫対応
- 汚染土壌処理、一般廃棄物処理施設運営管理、食品リサイクルループ等に広がる環境関連事業



環境と資源を守る  
**三友プラントサービス株式会社**  
 神奈川県相模原市緑区橋本台1-8-21 ☎042-773-3611

三友グループ (<https://www.g-sanyu.co.jp/>)

- 早来工営株式会社
- 株式会社三友環境総合研究所
- 三友エンテック株式会社



# バイオマス関連の研究開発にも挑戦

三友プラントサービス(相模原市緑区、小松和史社長、042・773・1431)は、産業廃棄物処理業界の中で独自の存在感を發揮している。一般的な産業廃棄物だけでなく、研究所などで出る特殊な処理が困難な化学製品の処理を得意としており、対応できる企業はまれだ。また、環境に配慮した社会を実現するため、廃ハルプなどのセルロース系廃棄物を原料にジェット燃料を生み出すというプロジェクトを進めるなど、研究開発にも力を注いでいる。

## 三友プラントサービス



化学製品の処理には分析作業が求められる

### コーヒー豆かすからジェット燃料

自社で廃棄物処理プラントを構築してきた三友プラントサービスのノウハウが生きている。

度な技術が必要なため扱う企業は数少ない。また、三友プラントサービスは業界に先駆け、処理に関するデータの電子管理や、産業廃棄物の受発注書類の電子化にも取り組んできた。ユーザーにとって煩雑な作業を減らすことにもつながり、好評を得ている。

三友プラントサービスは環境や資源の維持につながる先進技術の研究開発も数多く取り組んでいる。これまでもスターバックスコーヒージャパン(東京都品川区)と連携し、コーヒー豆かすを乳牛用の飼料に加工した循環利用を実現した。フロンを焼却炉で破壊処理する仕組みや、工場跡地で汚染された土壌の浄化で、水銀や鉛の水洗浄や揮発性有機化合物(VOC)の処理といった技術も構築している。

近年取り組むのは、食物由来ではないセルロース系原料からバイオエタノールやジェット燃料を生成するプラントの実現だ。バイオ関連の技術を持つBiomaterials in Tokyo(福岡県大野城市)などと共同で、15年度から新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトとして推進してきた。

原料について当初は、三友プラントサービスの荒井進執行役員によると、原料の違いに合わせ、酵素の種類、酵母発酵の温度や時間の管理などに苦労した。プロジェクトの延長が決まれば、ミニプラントで実証を続けたいという。

その後、酵母でエタノール発酵し、最後に固形物と液体を分けると、エタノールがでてくる。今後はNEDOより新たに採択された事業としてエタノールをジェット燃料に改質する工程も研究する。

プロジェクトの一環で、16年に三友プラントサービス川崎工場(川崎市川崎区)にミニプラントを作り、工程ごとに検証した。



川崎工場に建設したパイロットプラントで研究を進める